

光 学 天 文 連 絡 会

GROUP OF OPTICAL AND INFRARED ASTRONOMERS (GOPIRA)

會報

No.34

卷之三

光学天文連絡会事務局（東京大学理学部天文学教室）発行

第31回運営委員会記録

日時・場所：1984年11月20日(火) 17:00～19:53 東大天文教室会議室

出席者：委員 小堀、清水、田中、山下、鷲原、小平、寿岳、西村、磯部、安藤、岡村、

兼吉、若松、岡(田村代理) 出席(欠席：前原)

会員 中相、渡辺、沖田、家、尾中、豊平田、川上、小倉、浜部

大学聯合植物研究所にて開催された研連の文書とPR関係文書

1. シンポジウムのまとめ。(3) 平井分光(田中治) (4) 佐藤敏夫(岡田泰一)

(5) 「7.5m口径を目標とする」とが確認された。今後、研連への文書とPR関係文書

の報告をまとめていくことにする。共同利用体制についての議論が高まってきた。

研連への文書の案を岡村氏が作成、それに付けて以下のよう万葉が議論された。

第二回。予算規模、現地基地の規模の詳細化、共同利用を大項目に上げた。

現地基地の呼称名(例：八ヶ島天体物理観測所等々)。国内センター的なもの

を受けての名称と規模。現地雇用の問題。国際協力部的なものを国内センターへ入れる

「共同利用と国際協力」という大項目を設ける。

エシアナリ研連に間に合せますように、起草委員会(岡村、家、寿岳、山崎、安藤、

(平井)、中相、沖田)で早急にまとめ、次回の委員会で最終案をねらう。

1) 現在進行されている「プラザの子機多賀城にて第一回研連直轄会議」

2. 共同利用体制について

とくに船橋は出ず、以下に議論を紹介する。

Kg: 共同利用体制の形態は、シンポジウムで出された以上よりもは出でたなりと思う。

(体制WGのメンバー追加承認が進めましたが、看護、家、西村を追加していきの承認下さい。)

Og: 大谷、小倉両氏によるシンポジウムでの提案は、体制WGとして出でよう求められたもの

と理解した。(委員長の考え方で資料収集と黙っていたための私見) ディレクターが

Wk: 私は資料を出してもう少しにしたと思う。

Kg: どういう体制でこの問題を議論するのか。

Wk: 3点ついていた。少なくするために次の方策を進める。

Og: 他機関について調査し、問題点を出す。JNLTについて望ましい体制を

考へることだつて、については引き続き意見交換を行う。当面現行のまま。(6月締め切り、

Wk: 体制WGだけ直轄研という考え方が前面に出でてきている。

Kg: 運営委員会には、もっとつめてから報告してほしい。そのためにも、どうしてつめていくか。

どうするかを議論していただきたい。岡山ユーガースミーティングとも関係してくる。

そこでの議論をWGへフィードバックしてもらいたい。ユーザーの要請をよく表わせるも

Kg: 体制WGのメンバーを補強して体制について議論してほしい。

Wk: 地方では、はなれていて基礎知識がない。

Kd: 研連で準備委員会を設けてもらいたいので議論にも33方がよいかも知れない。

Kg: それは光だけではなくじなくて、西方面で行なってつき合せればよいかも知れない。

ともかく、独自にやる必要はある。

Wk: 通常の議論は易しいが、もうその段階ではない。

Jg: 情報が少ないので小平氏に入り、でもうのがよい。

MH: 体制WGのメンバーを変える必要があると思うが。

Wk: 岡山、木滑のプログラムという問題で4月、メンバーをかえた前例がある。

MH: 原案作成が行なわれないと、意義論出来ない。

Kg: 体制WGのメンバーも含め次の運営委で意義論します。

Wk: プログラム問題は、ユーザーズミーティングを設置してそこで意義論を続行し、この問題はやはり、

メンバーをかえた必要がある。

3. 今後の方針

○ 次回運営委では(1)石連文書作成 (2) 体制WGのとり組みと内容並びとの体制についてまとめる。

(3) プログラム相談会×メンバーの推薦 (これはあと岡山ユーザーズミーティングで決まりたった議題)

について意義論(12月1日、宇宙研B)。

○ 各ワークショップ、星の研究会等で、懇談会を開いてほしい。

○ 運営委の選挙の時期を遅らせたい旨事務局長(田中氏)より発言があった。請求

4. その他

○ 東京天文台内望遠鏡WGで行なっていい調査費項目について説明あつた。(小平)

★ 調査段階で他機関の人々が加わるよう旅費要求している

★ 海外旅費差し引いた民間の基金等も活用したい。

○ 海外学術調査について(寿岳)

○ 来年は北村氏代表でエジプトが出来てている。

○ 海部氏の日米協力は2~3年目はOpt.IRのグループが入るようにしていい。

○ ハワイのサイトテストを参考して、来年はハワイに海外学術調査を出す方がよい。

天文で2つ出せないか考えていい。(南天も観測したいので)

○ 日米協力をD.Hall氏が考えようと言ってきていい(X切替5月)。

(文責: 安藤祐康、小暮智一)

W: 研究の議論は易しいが、もう少し結構な意見を述べてもらいたい。

B. 機器開発用に一定の枠を設けて時間をさく。

現在では一般的な研究申込みの一部として約2.5%がそれに当てられている。永年の懸案であった計算機導入に伴って、現在は種々の新装置（フーリエ分光器、ファブリーペロー、IDARSS、新カセグレン分光器等）の改良、導入が重なり、オーバー・ロードの気味があるが、ここ1~2年が山で、その後はJNLT関係の開発に転進するであろう。開発作業の計画性、事前検討なども、ユーザースミーティングで将来はできるであろう。

C. 岡山91cm活用を望む。

以前から報告されているように長期プロジェクトが可能であり、こみ具合は188cmより少ない。IDARSSや2光路測光器などの活用が望まれる。
4) その他次のような項目について意見交換があったが、今後の課題として残された。
a. サブテレスコープ；ハワイには無理らしいが国内に考えられないか。
b. 堂平の東京天文台91cmを共同利用に供することはできないか。
c. 観測旅費の不足を解消する方策が講じられないか。
d. 光学天文分野の若年人材確保・育成のためのPDF制度を導入できないか。
e. JNLT用のものも含めて、機器開発の分担体制がつくれないか。

以上 世話人 清水実、小平桂一、
安藤裕康、中桐正夫

追記：なお、フリーディスカッションの中で次のような希望がでた。

1. 他の観測所と較べて、食事内容の改善の余地があるのではないか。あるなら改善を考えて欲しい。
2. 寝室の暗さ、静かさを確保して欲しい。
(他にもありましたが、この二つは共通の希望のようでした！)

(文責 小平)

*出席者数 21日午後 47名

22日午前 46名 午後 45名

休憩W午会合メモ

大北東 器光会 (IDARS 2)

岡山天体物理観測所の観測装置について

日時：1984年12月11日

(IDARS 2)

場所：宇宙科学研究所 45号館会議室

(IDARS 2)

出席者：家、石田、大谷、小倉、小暮、齊藤(内閣)、前原、山下、小平

(IDARS 2)

現在岡山で使用されている観測装置の種類は一寸数えただけでも25を越えている。計算機の種類も各望遠鏡で異なっておりシステムも違う。また望遠鏡の制御もそれぞれの時代を反映して、異なった方式を探っている。

このような状態で、如何に装置を安定させ良質の観測データを得るか、又その上で尚かつ、どうやって新しい観測手法を導入開発していくか、JNLTとの絡みを考え、ユーザーと観測所が協力してこの問題にとりくんでいかなければならないのが現状である。プログラムの申込み、編成に関しては充分にこの辺の事情を考慮して頂きたい。

1984年度に使用された観測装置は次の通りである。（開発中） [他大学持ち込み]

I. 188cm (FACOM)

A. ニュートン焦点、直接撮像 (CCDカメラ)

B. カセグレン焦点

1. II 分光器

2. マルチチャンネル分光計

3. (新分光器)

4. (赤外測光器, F-P, 京大)

5. (スペックル, 北大, 機械技研)

C. クーデ焦点

1. F/4, F/10 分光器 写真

2. F/10 II 使用 (90m/m, 40m/m, スライサー)

3. IDARSS

4. (ファブリペロー分光計)

5. エシェル分光器

6. (フーリエ分光計)

7. (ポラリメーター)

高分散、狭帯域、赤外の波長測定にはTh-Ne比較スペクトルが便利。アトラスは乗本、または山下まで。

(O) 恒星 不山 須崎(林西) 関 藤原 平小 谷大 藤原 (O) 田谷

I. 91cm (OKITAC)

1. 光電測光器

2. 3色同時測光器

3. プリズム分光器

4. (赤外測光器 京大)

は東京天文台教授会にまかせてもらいたい。○会員の

メンバーは来ることをやるべきか？。MKOではハワイ大学天文研究所が主導

5. [IDASS分光器 東北大]

現在では一般的な研究用として、主に太陽観測のための装置（太陽分光器、IDASS、新カセグレン分光器等）の

III. 6.5 cm太陽 (MELOM)

改良、実験

1. マグネットグラフ

高分散分光器 (II) (IDT, CCD) ユーザースミーティングで将来はできるであろう。

現在計画中のものとしては

1. 新分光器用 PIAS

マルチチャンネル分光計コールドボックス及びFACOMへの組み込み

3. クーデ分光器 スリット付近及びグレーティング表示系の改造

CCDカメラシステム

5. 望遠鏡表示系

などがある。グレーティングのライマン・ゴースト、散乱光が重大な影響を及ぼすことが最近判明した（狭帯域フィルターを手配中）。計算機のソフトウェアの蓄積も重要であるのでユーザー各位の協力をお願いしたい。

お願い

最近VISITORからの連絡が遅れがちです。特殊仕様の場合は3ヵ月前、銀測連絡用の葉書は10日前までにつくようお願いします。

以上 勝利人 (器長代) 小平桂一、
[大京] 真理子 (器長候補) 中根正夫
(文責 清水)

追記：なお、フリーダイスカッションの中で次のような希望がでた。

1. 他の銀測所と較べて、食事内容の改善の余地があるのではないか。あるなら改善を希望して下さい。

2. 検査の暗さ、静かさを検査して下さい。

(他にもありました、この二つは共通の希望のようでした！)

3. IDASS
(精光代一括りで)

※※ 委員会 **
運営委員： 安藤、磯部、岡村、兼古、小暮（委員長）、小平、清水、寿岳、田中、田村（代理：
関）、西村、舞原、前原、山下、若松

望遠鏡WG：
磯部（O）、岡村、兼古、中井、野口（邦）、平田、舞原（O）、山崎

体制WG：
石田（O）、家、大谷、小倉、小平、斎藤、関、西村、前原、山下、若松（O）

国際協力WG：
家、市川、奥田、北村、小平、佐藤（O）、寿岳（O）、松本（O）
音順、（O）は世話人。

体制WG会合メモ

日時：1984年12月11日 9:00-11:00

場所：宇宙科学研究所 45号館会議室

出席者：家、石田、大谷、小倉、小暮、斎藤（衛）、関、前原、山下、若松、（小平、
清水オブザーバー）

議題： 1) 東京天文台プログラム相談会について

2) ユーザーズ・コミッティーの設置について

3) JNLTの体制について

結論 * 東京天文台のプログラム相談会について、種々意見の交換を行った結果、「相談会の台外メンバーを約5名東京天文台へ推薦する。その人選は運営委へ一任する」とこととした。* ユーザーズ・コミッティーは、ユーザーズ・ミーティングで出された意見を集約し、それとともにプログラム相談会での討議をより多くのリ多しくするために重要な役割である。しかしこのコミッティーの設置場所として光天連の中とすべきか、あるいは、プログラム相談会の中に設置していくかのようにすべきかについて60年5月までに結論を出すこととした。

討議経過

○若松から岡山・ユーザーズ・ミーティングのプログラム編成関係について以下のまとめを行った。1) プログラム相談会は、プログラム案ばかりではなく、プログラムの方針をもっと積極的に討議する場とする。2) その台外メンバーとして、光天連から推薦があれば、それを考慮しても良い（吉在台長発言）。

3) ユーザーズ・ミーティングと相談会とのインテグレーションとしてユーザーズ・コミッティーが重要な役割を持つだろう。4) プログラムの新しい編成方針としての機器開発のために3~4ヶ月をとる。②機器の安定化とばらるため同一機器使用の観測をできるだけまとめて行う。5) プロポーザル募集の時期・半年制か否か等今後の討議に待つ事項が多く残った。山下から以下の報告、意見が述べられた。

○59年にひらかれたプログラム相談会のメンバーは13名で以下の通り（吉在、守山、高瀬、北村、山下、石田（K）、西村、石田（K）、前原、高瀬、海野、小暮、川口）

○各機関の代表者としてではなく学識経験者として出席してもらっている。○岡山で木曾は共同利用施設ではないので、相談会は制度的には何んの基礎も立っていない。○台内のメンバーは東京天文台教授会にまかせてもらいたい。○台外のメンバーは教授会の承認となっている。討論の要約は以下の通り。○ユーザーズ・ミーティングは本来どこがやるべきか？○MKOではハワイ大学天文研究所が主催

し、年一回開かれている。○KPNOのユーザーズ・コミッティーは、天文台にくつっている。○年、1~2度の相談会だけでは、とても“方針”を討議する事はできない。どうしても、もっと細かくつめて行く場であるコミッティーが必要だ。○ユーザーズ・コミッティーは運営の責任をとれるところに本来属すべきである。○岡山・木曾は形式的に共同利用施設でないので、コミッティーを天文台の中に作るのはむつかしいのではないか。○しかし、相談会という形でこれまで20数年もやってきたのだから、相談会の下になんらかの形でとり込めないのか。○旅費を東京天文台が全てめんどう見切れないなら、旅費なしという形でも良いだろう。○2ヶ月後に、相談会がせまっている事もあるし、ユーザーズ・コミッティーの件はこのWLTの任期である60年5月までに、なんらかの形で設置する方向ですることを条件に、相談会メンバーを推薦する事を運営委員会に答申してはどうか。

(文責:若松謙一)

すこ中の監視者たるため設置場の一辺に立つ。おもてはる重きを負ふ。お間違ふことなく、おもてはる重きを負ふ。最近VISITORからの連絡が遅れがちです。機器の調査も5月前、整備実用の準備は10日前までにつくようお願いします。

監視者

光学天文連絡会会則	
定 義	本会は、光学・赤外天文学に関心のある研究者の自主的組織である。
事 業	本会は、光学・赤外天文学の発展を目的として、そのために必要な各種計画の推進、研究会の主催等を行なう。
会 員	会員は、個人加入とする。
会 員	会員は、会の目的に賛同し、会費を納入する。
本 会	本会は、会員の総会をもつ。
運 営	会員の互選によって運営委員を選出する。
運 営	運営委員会の委員長は、本会を代表する。
運 営	運営委員の任期は1年とする。
専門委 員	運営委員会は、若干の専門委員会をおき、委員を指名する。
事務局	運営委員会は、事務局をおく。
事務局	事務局は、会報を発行し、会員事務を行なう。
発 足	昭和55年12月1日

天文学研究連絡委員会討議メモ

第32回運営委員会議事録

天玄古。(照参考)式典ある吉野のWLT開設依頼会員委員会議事録も付添てま
日 時： 1984年12月11日(火) 11:10-13:10 寶谷五郎依頼台
場 所： 宇宙科学研究所 45館5階会議室
出席者： 委員：磯部、岡村、兼古、小平、小暮、清水、寿岳、関(田村代理)、田中、
前原、山下、若松(欠席：安藤、西村、舞原)。
委員外：家、石田、大谷、小倉、尾中、斎藤、中桐、谷大上、中田、古兼
事務局幹事

1. PR文書について

12月20日の研連に向けて文書作りをすることをうけて、岡村より文書原案が示され作成経過が報告された。内容についてひとわたり議論がなされたあと、次のような討論があつた。

磯部：将来に向けての技術開発(たとえば軽量鏡)にも重点をおくという光天連として從来とってきた方針がぬけ、当面作るものに集中しすぎている。方針を転換するのか。
寿岳：光天連の3段階方針は外部から徹底的に否定された。この文書にそれを入れると研連ではアブループされない。将来30年の計画として載せるべきか、光天連の方針として重要なことであるから議論してほしい。

小暮：光天連シンポジウムではこのことはほとんどとりあげられなかった。これを方針が変わったとみるのか。

磯部：この文書に入れることには固執しないが、将来の展望としてたとえばコスト減の問題のような思想がどこに入っているのか、文を1行つけ加えるかどうかで済む問題ではない。

寿岳：不定の未来を入れればそれだけ迫力が減る。重要な問題であることに変わりはないが。

小暮：当面の計画についての文書として切りはなして考えるはどうか。

磯部：リマークしてくれればここではひっこめる。

小平：研連の決議では大型プロジェクトの推進の中にもられている。

小暮：将来計画用の文書を作りそこにもるのはどうか。これは一般用のPR文書をどう

するかに関連する。

以上の討論をふまえ8ページ程度の一般向けPR文書を作ることになったが、世話人になってよいという人がおらず、一応磯部、小平が中心になって5月の学会をめどに3月ごろまでに原案を作ることになった。また、今の文書は会報の特別号として会員にくばることになった。JNL T (Japanese National Large Telescope) という名称はかなり普及しているが、Nationalということばは文部省などでは一つの概念があってまだきまっているものをNational Projectというわけにはいかないので、表題としては使えない。(N=Newであるといえばよいという意見もあった。)

し、毎一年開かれていた。の天文学研究連絡委員会討議会は、天文台にあります。

2. 岡山プログラムについて

まず若松より運営委員会直前に開かれた体制WGの報告があった（別項参照）。古在天文台長から現在台長が招集して行なっているプログラム相談会のメンバを光天連で推薦してくれれば尊重するという発言があったのをうけて、とりあえず今年度は天文台外の人を5名程度推薦することになった（天文台内のは台長に一任、東大天文学教室は天文台外）。相談会がひらかれる当日不在があきらかな人を除いた運営委員と体制WGのメンバ、兼古、田中、若松、大谷、小倉、斎藤、関の7名を候補者とした。

3. 体制について

次のような議論があった。
小暮：JNLT体制について今まで議論しているひまがなかったが、当面国内外の情報を収集してデータ作りをする。共同利用体制に対して会員はどういうイメージをもつているかをまとめる。
小平：付置研をへらして直轄研にするという文部省の一般方針とからんで水沢緯度観測所や名大空電研をどうするかなど来年度はかなり早い対応をせまられることになる。
小暮：光天連としてはJNLTを中心に理想的形態はどういうものかをまとめておけばよい。情勢に流されてはいけない。

寿岳：このような大型プロジェクトは直轄研でなければできないといわれれば流されざるをえない。

斎藤：大きな流れとのからみはあるが、天文台がどういう形になるのか、最初から入れ物のことをやろうとしてもわれわれの力ではできない。丁寧にこころを思はる人の醍醐味がある。

若松：望遠鏡WGは天文台の中に実行部隊がある。体制WGは地方に分散しているので情報がまちまちで伝わらない。天文台内にサブグループを作ってほしい。

4. その他
事務局長（田中）より、運営委員の選挙は従来少し早すぎたくらいがある、新旧交代は5月であるからできるだけ遅らせ、2月末公示で3月末までに決定することにしたいとの提案があり了承された。

また、小平氏を体制WGメンバに加えることが了承された。

（文責：田中 浩、小暮智一）

（参考文献）
1. 天文学研究連絡委員会討議会（第1回）（1980年1月）
2. 天文学研究連絡委員会討議会（第2回）（1980年3月）
3. 天文学研究連絡委員会討議会（第3回）（1980年5月）
4. 天文学研究連絡委員会討議会（第4回）（1980年7月）
5. 天文学研究連絡委員会討議会（第5回）（1980年9月）
6. 天文学研究連絡委員会討議会（第6回）（1980年11月）
7. 天文学研究連絡委員会討議会（第7回）（1981年1月）
8. 天文学研究連絡委員会討議会（第8回）（1981年3月）
9. 天文学研究連絡委員会討議会（第9回）（1981年5月）
10. 天文学研究連絡委員会討議会（第10回）（1981年7月）
11. 天文学研究連絡委員会討議会（第11回）（1981年9月）
12. 天文学研究連絡委員会討議会（第12回）（1981年11月）
13. 天文学研究連絡委員会討議会（第13回）（1982年1月）
14. 天文学研究連絡委員会討議会（第14回）（1982年3月）
15. 天文学研究連絡委員会討議会（第15回）（1982年5月）
16. 天文学研究連絡委員会討議会（第16回）（1982年7月）
17. 天文学研究連絡委員会討議会（第17回）（1982年9月）
18. 天文学研究連絡委員会討議会（第18回）（1982年11月）
19. 天文学研究連絡委員会討議会（第19回）（1983年1月）
20. 天文学研究連絡委員会討議会（第20回）（1983年3月）
21. 天文学研究連絡委員会討議会（第21回）（1983年5月）
22. 天文学研究連絡委員会討議会（第22回）（1983年7月）
23. 天文学研究連絡委員会討議会（第23回）（1983年9月）
24. 天文学研究連絡委員会討議会（第24回）（1983年11月）
25. 天文学研究連絡委員会討議会（第25回）（1984年1月）
26. 天文学研究連絡委員会討議会（第26回）（1984年3月）
27. 天文学研究連絡委員会討議会（第27回）（1984年5月）
28. 天文学研究連絡委員会討議会（第28回）（1984年7月）
29. 天文学研究連絡委員会討議会（第29回）（1984年9月）
30. 天文学研究連絡委員会討議会（第30回）（1984年11月）
31. 天文学研究連絡委員会討議会（第31回）（1985年1月）
32. 天文学研究連絡委員会討議会（第32回）（1985年3月）
33. 天文学研究連絡委員会討議会（第33回）（1985年5月）
34. 天文学研究連絡委員会討議会（第34回）（1985年7月）
35. 天文学研究連絡委員会討議会（第35回）（1985年9月）
36. 天文学研究連絡委員会討議会（第36回）（1985年11月）
37. 天文学研究連絡委員会討議会（第37回）（1986年1月）
38. 天文学研究連絡委員会討議会（第38回）（1986年3月）
39. 天文学研究連絡委員会討議会（第39回）（1986年5月）
40. 天文学研究連絡委員会討議会（第40回）（1986年7月）
41. 天文学研究連絡委員会討議会（第41回）（1986年9月）
42. 天文学研究連絡委員会討議会（第42回）（1986年11月）
43. 天文学研究連絡委員会討議会（第43回）（1987年1月）
44. 天文学研究連絡委員会討議会（第44回）（1987年3月）
45. 天文学研究連絡委員会討議会（第45回）（1987年5月）
46. 天文学研究連絡委員会討議会（第46回）（1987年7月）
47. 天文学研究連絡委員会討議会（第47回）（1987年9月）
48. 天文学研究連絡委員会討議会（第48回）（1987年11月）
49. 天文学研究連絡委員会討議会（第49回）（1988年1月）
50. 天文学研究連絡委員会討議会（第50回）（1988年3月）
51. 天文学研究連絡委員会討議会（第51回）（1988年5月）
52. 天文学研究連絡委員会討議会（第52回）（1988年7月）
53. 天文学研究連絡委員会討議会（第53回）（1988年9月）
54. 天文学研究連絡委員会討議会（第54回）（1988年11月）
55. 天文学研究連絡委員会討議会（第55回）（1989年1月）
56. 天文学研究連絡委員会討議会（第56回）（1989年3月）
57. 天文学研究連絡委員会討議会（第57回）（1989年5月）
58. 天文学研究連絡委員会討議会（第58回）（1989年7月）
59. 天文学研究連絡委員会討議会（第59回）（1989年9月）
60. 天文学研究連絡委員会討議会（第60回）（1989年11月）
61. 天文学研究連絡委員会討議会（第61回）（1990年1月）
62. 天文学研究連絡委員会討議会（第62回）（1990年3月）
63. 天文学研究連絡委員会討議会（第63回）（1990年5月）
64. 天文学研究連絡委員会討議会（第64回）（1990年7月）
65. 天文学研究連絡委員会討議会（第65回）（1990年9月）
66. 天文学研究連絡委員会討議会（第66回）（1990年11月）
67. 天文学研究連絡委員会討議会（第67回）（1991年1月）
68. 天文学研究連絡委員会討議会（第68回）（1991年3月）
69. 天文学研究連絡委員会討議会（第69回）（1991年5月）
70. 天文学研究連絡委員会討議会（第70回）（1991年7月）
71. 天文学研究連絡委員会討議会（第71回）（1991年9月）
72. 天文学研究連絡委員会討議会（第72回）（1991年11月）
73. 天文学研究連絡委員会討議会（第73回）（1992年1月）
74. 天文学研究連絡委員会討議会（第74回）（1992年3月）
75. 天文学研究連絡委員会討議会（第75回）（1992年5月）
76. 天文学研究連絡委員会討議会（第76回）（1992年7月）
77. 天文学研究連絡委員会討議会（第77回）（1992年9月）
78. 天文学研究連絡委員会討議会（第78回）（1992年11月）
79. 天文学研究連絡委員会討議会（第79回）（1993年1月）
80. 天文学研究連絡委員会討議会（第80回）（1993年3月）
81. 天文学研究連絡委員会討議会（第81回）（1993年5月）
82. 天文学研究連絡委員会討議会（第82回）（1993年7月）
83. 天文学研究連絡委員会討議会（第83回）（1993年9月）
84. 天文学研究連絡委員会討議会（第84回）（1993年11月）
85. 天文学研究連絡委員会討議会（第85回）（1994年1月）
86. 天文学研究連絡委員会討議会（第86回）（1994年3月）
87. 天文学研究連絡委員会討議会（第87回）（1994年5月）
88. 天文学研究連絡委員会討議会（第88回）（1994年7月）
89. 天文学研究連絡委員会討議会（第89回）（1994年9月）
90. 天文学研究連絡委員会討議会（第90回）（1994年11月）
91. 天文学研究連絡委員会討議会（第91回）（1995年1月）
92. 天文学研究連絡委員会討議会（第92回）（1995年3月）
93. 天文学研究連絡委員会討議会（第93回）（1995年5月）
94. 天文学研究連絡委員会討議会（第94回）（1995年7月）
95. 天文学研究連絡委員会討議会（第95回）（1995年9月）
96. 天文学研究連絡委員会討議会（第96回）（1995年11月）
97. 天文学研究連絡委員会討議会（第97回）（1996年1月）
98. 天文学研究連絡委員会討議会（第98回）（1996年3月）
99. 天文学研究連絡委員会討議会（第99回）（1996年5月）
100. 天文学研究連絡委員会討議会（第100回）（1996年7月）
101. 天文学研究連絡委員会討議会（第101回）（1996年9月）
102. 天文学研究連絡委員会討議会（第102回）（1996年11月）
103. 天文学研究連絡委員会討議会（第103回）（1997年1月）
104. 天文学研究連絡委員会討議会（第104回）（1997年3月）
105. 天文学研究連絡委員会討議会（第105回）（1997年5月）
106. 天文学研究連絡委員会討議会（第106回）（1997年7月）
107. 天文学研究連絡委員会討議会（第107回）（1997年9月）
108. 天文学研究連絡委員会討議会（第108回）（1997年11月）
109. 天文学研究連絡委員会討議会（第109回）（1998年1月）
110. 天文学研究連絡委員会討議会（第110回）（1998年3月）
111. 天文学研究連絡委員会討議会（第111回）（1998年5月）
112. 天文学研究連絡委員会討議会（第112回）（1998年7月）
113. 天文学研究連絡委員会討議会（第113回）（1998年9月）
114. 天文学研究連絡委員会討議会（第114回）（1998年11月）
115. 天文学研究連絡委員会討議会（第115回）（1999年1月）
116. 天文学研究連絡委員会討議会（第116回）（1999年3月）
117. 天文学研究連絡委員会討議会（第117回）（1999年5月）
118. 天文学研究連絡委員会討議会（第118回）（1999年7月）
119. 天文学研究連絡委員会討議会（第119回）（1999年9月）
120. 天文学研究連絡委員会討議会（第120回）（1999年11月）
121. 天文学研究連絡委員会討議会（第121回）（2000年1月）
122. 天文学研究連絡委員会討議会（第122回）（2000年3月）
123. 天文学研究連絡委員会討議会（第123回）（2000年5月）
124. 天文学研究連絡委員会討議会（第124回）（2000年7月）
125. 天文学研究連絡委員会討議会（第125回）（2000年9月）
126. 天文学研究連絡委員会討議会（第126回）（2000年11月）
127. 天文学研究連絡委員会討議会（第127回）（2001年1月）
128. 天文学研究連絡委員会討議会（第128回）（2001年3月）
129. 天文学研究連絡委員会討議会（第129回）（2001年5月）
130. 天文学研究連絡委員会討議会（第130回）（2001年7月）
131. 天文学研究連絡委員会討議会（第131回）（2001年9月）
132. 天文学研究連絡委員会討議会（第132回）（2001年11月）
133. 天文学研究連絡委員会討議会（第133回）（2002年1月）
134. 天文学研究連絡委員会討議会（第134回）（2002年3月）
135. 天文学研究連絡委員会討議会（第135回）（2002年5月）
136. 天文学研究連絡委員会討議会（第136回）（2002年7月）
137. 天文学研究連絡委員会討議会（第137回）（2002年9月）
138. 天文学研究連絡委員会討議会（第138回）（2002年11月）
139. 天文学研究連絡委員会討議会（第139回）（2003年1月）
140. 天文学研究連絡委員会討議会（第140回）（2003年3月）
141. 天文学研究連絡委員会討議会（第141回）（2003年5月）
142. 天文学研究連絡委員会討議会（第142回）（2003年7月）
143. 天文学研究連絡委員会討議会（第143回）（2003年9月）
144. 天文学研究連絡委員会討議会（第144回）（2003年11月）
145. 天文学研究連絡委員会討議会（第145回）（2004年1月）
146. 天文学研究連絡委員会討議会（第146回）（2004年3月）
147. 天文学研究連絡委員会討議会（第147回）（2004年5月）
148. 天文学研究連絡委員会討議会（第148回）（2004年7月）
149. 天文学研究連絡委員会討議会（第149回）（2004年9月）
150. 天文学研究連絡委員会討議会（第150回）（2004年11月）
151. 天文学研究連絡委員会討議会（第151回）（2005年1月）
152. 天文学研究連絡委員会討議会（第152回）（2005年3月）
153. 天文学研究連絡委員会討議会（第153回）（2005年5月）
154. 天文学研究連絡委員会討議会（第154回）（2005年7月）
155. 天文学研究連絡委員会討議会（第155回）（2005年9月）
156. 天文学研究連絡委員会討議会（第156回）（2005年11月）
157. 天文学研究連絡委員会討議会（第157回）（2006年1月）
158. 天文学研究連絡委員会討議会（第158回）（2006年3月）
159. 天文学研究連絡委員会討議会（第159回）（2006年5月）
160. 天文学研究連絡委員会討議会（第160回）（2006年7月）
161. 天文学研究連絡委員会討議会（第161回）（2006年9月）
162. 天文学研究連絡委員会討議会（第162回）（2006年11月）
163. 天文学研究連絡委員会討議会（第163回）（2007年1月）
164. 天文学研究連絡委員会討議会（第164回）（2007年3月）
165. 天文学研究連絡委員会討議会（第165回）（2007年5月）
166. 天文学研究連絡委員会討議会（第166回）（2007年7月）
167. 天文学研究連絡委員会討議会（第167回）（2007年9月）
168. 天文学研究連絡委員会討議会（第168回）（2007年11月）
169. 天文学研究連絡委員会討議会（第169回）（2008年1月）
170. 天文学研究連絡委員会討議会（第170回）（2008年3月）
171. 天文学研究連絡委員会討議会（第171回）（2008年5月）
172. 天文学研究連絡委員会討議会（第172回）（2008年7月）
173. 天文学研究連絡委員会討議会（第173回）（2008年9月）
174. 天文学研究連絡委員会討議会（第174回）（2008年11月）
175. 天文学研究連絡委員会討議会（第175回）（2009年1月）
176. 天文学研究連絡委員会討議会（第176回）（2009年3月）
177. 天文学研究連絡委員会討議会（第177回）（2009年5月）
178. 天文学研究連絡委員会討議会（第178回）（2009年7月）
179. 天文学研究連絡委員会討議会（第179回）（2009年9月）
180. 天文学研究連絡委員会討議会（第180回）（2009年11月）
181. 天文学研究連絡委員会討議会（第181回）（2010年1月）
182. 天文学研究連絡委員会討議会（第182回）（2010年3月）
183. 天文学研究連絡委員会討議会（第183回）（2010年5月）
184. 天文学研究連絡委員会討議会（第184回）（2010年7月）
185. 天文学研究連絡委員会討議会（第185回）（2010年9月）
186. 天文学研究連絡委員会討議会（第186回）（2010年11月）
187. 天文学研究連絡委員会討議会（第187回）（2011年1月）
188. 天文学研究連絡委員会討議会（第188回）（2011年3月）
189. 天文学研究連絡委員会討議会（第189回）（2011年5月）
190. 天文学研究連絡委員会討議会（第190回）（2011年7月）
191. 天文学研究連絡委員会討議会（第191回）（2011年9月）
192. 天文学研究連絡委員会討議会（第192回）（2011年11月）
193. 天文学研究連絡委員会討議会（第193回）（2012年1月）
194. 天文学研究連絡委員会討議会（第194回）（2012年3月）
195. 天文学研究連絡委員会討議会（第195回）（2012年5月）
196. 天文学研究連絡委員会討議会（第196回）（2012年7月）
197. 天文学研究連絡委員会討議会（第197回）（2012年9月）
198. 天文学研究連絡委員会討議会（第198回）（2012年11月）
199. 天文学研究連絡委員会討議会（第199回）（2013年1月）
200. 天文学研究連絡委員会討議会（第200回）（2013年3月）
201. 天文学研究連絡委員会討議会（第201回）（2013年5月）
202. 天文学研究連絡委員会討議会（第202回）（2013年7月）
203. 天文学研究連絡委員会討議会（第203回）（2013年9月）
204. 天文学研究連絡委員会討議会（第204回）（2013年11月）
205. 天文学研究連絡委員会討議会（第205回）（2014年1月）
206. 天文学研究連絡委員会討議会（第206回）（2014年3月）
207. 天文学研究連絡委員会討議会（第207回）（2014年5月）
208. 天文学研究連絡委員会討議会（第208回）（2014年7月）
209. 天文学研究連絡委員会討議会（第209回）（2014年9月）
210. 天文学研究連絡委員会討議会（第210回）（2014年11月）
211. 天文学研究連絡委員会討議会（第211回）（2015年1月）
212. 天文学研究連絡委員会討議会（第212回）（2015年3月）
213. 天文学研究連絡委員会討議会（第213回）（2015年5月）
214. 天文学研究連絡委員会討議会（第214回）（2015年7月）
215. 天文学研究連絡委員会討議会（第215回）（2015年9月）
216. 天文学研究連絡委員会討議会（第216回）（2015年11月）
217. 天文学研究連絡委員会討議会（第217回）（2016年1月）
218. 天文学研究連絡委員会討議会（第218回）（2016年3月）
219. 天文学研究連絡委員会討議会（第219回）（2016年5月）
220. 天文学研究連絡委員会討議会（第220回）（2016年7月）
221. 天文学研究連絡委員会討議会（第221回）（2016年9月）
222. 天文学研究連絡委員会討議会（第222回）（2016年11月）
223. 天文学研究連絡委員会討議会（第223回）（2017年1月）
224. 天文学研究連絡委員会討議会（第224回）（2017年3月）
225. 天文学研究連絡委員会討議会（第225回）（2017年5月）
226. 天文学研究連絡委員会討議会（第226回）（2017年7月）
227. 天文学研究連絡委員会討議会（第227回）（2017年9月）
228. 天文学研究連絡委員会討議会（第228回）（2017年11月）
229. 天文学研究連絡委員会討議会（第229回）（2018年1月）
230. 天文学研究連絡委員会討議会（第230回）（2018年3月）
231. 天文学研究連絡委員会討議会（第231回）（2018年5月）
232. 天文学研究連絡委員会討議会（第232回）（2018年7月）
233. 天文学研究連絡委員会討議会（第233回）（2018年9月）
234. 天文学研究連絡委員会討議会（第234回）（2018

- 今山の高速で、どの程度感度が違うか = 観測時間と観測することができる範囲の大きさを示す。
- 可視域: $0''2$, 赤外域: $0''1$ とあります。これは、どのくらいの大きさの星が見えるか。
- MKO のセイズの限界は $0''3$ 以下か、それ以上か。
- 論文数の増加を示す図があるが、これは何を意味するか。
- 國際協力に寄り、外国の観測機器を利用などの実績を示す。
- 口径 $7.5m$ の "望遠鏡の最大口径" とはどういうことか。この口径と半角 $1''$ の条件について、日本協力によるもの。
- 国内センターというのは、この「シングル」でなく複数ある。
- 現存の組織との関係について説明されたもの。
- 現時望遠鏡の具体的な構成はまだ未定である。
- 2. IAU の勧告:
 - 1994年のIAU総会で日本に譲認するはどうかという意見について議論し、予め認めた意見が多かった。
 - 1985年11月のIAU総会では、前回の諮詢を踏まえて、85年3月のIAU総会でもう一度諮詢した。
- 3. 次期天文研究委員会の選出について。
 - 選出については日本天文学気候依頼するという方針が決まりた。選出方法については現行の有権者 (IAUメンバ) と下記のない有権者によって選出されるのが望ましいという完全な付文が。
 - (付文) 1993年3月の第3回(文責小暮)

大型光学赤外線望遠鏡計画の概要

1. 光学と赤外線天文の発展のために次の望遠鏡を設置する。

望遠鏡 経緯台式大型光学赤外線望遠鏡
設置場所 アメリカ合衆国ハワイ州ハワイ島

マウナケア国際観測所敷地内

2. 望遠鏡の特徴

本計画案による望遠鏡は口経 $7.5m$ の経緯台式反射望遠鏡であり、一枚主鏡を用いる望遠鏡としては世界最大のものとなる。

この望遠鏡は光学域 ($300\text{ nm} - 1\mu\text{m}$) および赤外域 ($1\mu\text{m} - 30\mu\text{m}$) の観測に用いられ、大口径集光力とともに射次への指向性能を総合して世界最高の観測能力を目指すものである。

(1) 广視野。一枚主鏡の特性を活かして望遠鏡の主焦点部に屈角 $30''$ 以上の視野となり、銀河團、原生星雲などの広がった散光天体の観測に威力を發揮する。

(2) 高解像、光学系、駆動系を総合して可視域では $0.2''$ 角、赤外域では $0.1''$ 角に迫る高解像力を發揮し、精密な撮像・観測を可能にする。

(3) 赤外線観測能力。望遠鏡本体の赤外反射を 8% 以下に抑える大集光力、高解像力の特性を活かして撮像、測光、分光の各種観測

により最高の赤外線観測機能を達成させる。これらの観測能力はマウナケア国際観測所の優れた天文観測条件下で始め育動に發揮される。

3. マウナケア国際観測所の立地条件

(1) マウナケア国際観測所 (西経 155° 、北緯 20° 、海拔高度 4200 m) の天文観測条件をまとめると。(1) 高い晴天率 (年間を通じ約 65%), (2) 大気安定性 (レイングは $1''$ 角)

以下が 60%，最良時 0.3 秒以下)，(3) 付小水蒸
気量 (は 20mm Hg 赤外線視測に最適)，(4) 気温稳定性 (夜間の温度変化 ±0.5 以内)，などと記載される。これらの
条件によりマウナケア山頂は世界最高の天文視測施設の一つと
評価される。

(2) 海拔 4000 m 以上の山頂部今はハワイ州において科学保護区
として特別の環境保護の措置がとられ、一方、視測施設のための
設備用道路、排水、電力、通信のすべてにおいて良好に維持
されている。

(3) 現地側の協定機関となるハワイ州およびハワイ大学は、これまでの
視測では本望遠鏡建設設計書に好意的であり、説教的に積極的である。

(4) マウナケア山頂の優れた視測条件のため、すでに世界数ヶ国の大
型望遠鏡が既設 (4台) ないし建設中 (3台) である。科学保護区の
ため、設置される望遠鏡は最大 13 台に規制されている。すなはち計画中の
ものの 11 台である。

(5) 本望遠鏡の建設により、山が国にかけて光学赤外線
視測で一層に世界最高の水準に引きあげる。くくに次の研究
において大きな成長が期待される。

銀河・宇宙の形成と進化、くくに 24 の宇宙初期天体
の探査と初期銀河団及び大規模宇宙構造の解明、
恒星・惑星系の生成過程、高解像力の赤外線視測による
原始星雲、原始惑星系の探査と物理構造の解析。

宇宙環境における極限物理学、X 線天体、銀河中心核
に期待される超高速度天体との環境条件の視測的研究
これらの成果はたんに天文学の分野にとどまらず、物理学 (宇宙論、
素粒子論、原子核物理、物性論、つづく物理論)、地球

科学 (惑星物理学、地球進化論、惑星空間物理学など) など

隕接諸分野に対する大きな課題を提供することになる。

(2) この望遠鏡は我が国の宇宙科学の基幹装置の一つとして
天文視測、大型宇宙観察装置、大型レミット望遠鏡
などの視測機器との連携のために、天文学、宇宙科学の推進に
寄与する。

(3) 本望遠鏡の建設には高度の工業技術、水平の必要
あり、望遠鏡の製作を経て、とくに次の分野への技術開拓
の子及初見が期待される。

光学材料、光学技術、精密機械技術、
開拓技術、データ通信、データ処理技術などと
して、

(4) 國際協力の発展、マウナケア国際望遠鏡にては、
アメリカ、日本、イギリス、カナダ、フランスが視測施設を有し
ており、オランダも近く参加する。ニニに日本の視測施設を多く
ことより、国際協力が長期的に進展し、
人々に天文の文化が広く普及する。また文化交流の面でも大きな発展が期待される。

(5) 本望遠鏡設置の緊急性は次の 2 点にある。

ガ 1. 現在、山が国のか光学赤外線天文学の研究水準は
研究能力と見合った視測装置がないため、世界的に落後している
状況のなかである。また、震源、X 線天文学の視測装置などを
比較しても著しく不均衡になっている。この状態を改善するため
本計画による大型望遠鏡の早期設置が必要である。

ガ 2. ハワイ州及びハワイ大学は現在、日本の大型光学赤外線
望遠鏡の導入が極めて困難であり、かつ同視測所敷地内の最高の
位置の提供の可能性を表明している。一方、同視測所一帯は
科学保護区として指定され、望遠鏡設置がも規制されており。現在、
アメリカでは新しい計画案もいくつか検討されている。このような

事情でハイ例は日本の望遠鏡の早期建設を期待している。

5. 全国共同利用

本望遠鏡建設計画は全国の光学天文学研究者の協意に基づいて進められている。実現の目標には望遠鏡および附属施設は全国の関連研究者の共同利用を含む。

* * 会員の異動 * *

(新入会員) 半田 利弘 東京大学理学部天文学教室 電話 03-812-2111
〒113 東京都文京区弥生2-1 1-16 (内線 4266)

竹田 洋一 東京大学東京天文台 電話 0422-32-5111
〒181 東京都三鷹市大沢2-2 1-1 (内線 313)

中村 士 Space Telescope Science Institute
Homewood Campus, Baltimore, MD 21218, U.S.A.

(異動) 田辺 俊彦 東京大学東京天文台 電話 0422-32-5111
〒181 東京都三鷹市大沢2-2 1-1 (内線 225)

(海外渡航) 尾中 敬 Mauna Kea Observatory (IRTF) 1984.12.12-12.23
古在 由秀 M.K.O., J.P.L., Arizona Univ., etc. 1985. 1. 6- 1.16
小暮 智一 インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ 1985. 1.18- 2.22
(日本・インドネシア協力事業)

* * 会費納入のお願い * *

すでに8割以上の方が会費を納入しておられます。一方前年度の会費が未納の方も少數おられます。会費未納の方には郵便振替用紙(東京4-131044 光学天文連絡会)を同封しましたので大至急御納入下さい。会費は本年度より

一般 年2000円 学生 年1000円

です。

光学天文連絡会 Group of Optical and Infrared Astronomers (GOPIRA)
会報 No.34 1985年1月21日発行
発行者 東京大学理学部天文学教室内 光学天文連絡会事務局 田中 濟
〒113 東京都文京区弥生2-11-16 TEL 03-812-2111 内線4262
郵便振替口座 番号 東京4-131044 光学天文連絡会